



園芸作物栽培に関する

これからの対策  
と  
Q & A

春先の気象と農作業

すでに梅の開花の便りは各地から届いてきております。3月に入ると日2日と日射しは強くなってきます。今冬は記録的な少雪だったため雪も全く見られない状況となつています。暖冬の主因となつているエルニーニョ現象はまだしばらく続くようで、野菜にとっても良いように思えますが、得てしてこうした年は遅霜による傷みが発生し

やすい年でもあります。特に彼岸までは強い霜が降りやすいので注意しましょう。降霜予報が出た日は前の日の夕方にはパオパオなどのベタがけを行つておきましょう。エルニーニョによる暖冬の年は統計的には冷夏になりやすいと言われております。野菜作りは常に天候の推移に注意を払い適切な管理を心がけましょう。

大門 優  
園芸アドバイザー  
お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499

◎越冬野菜の管理

圃場に雪がないため地温の上昇は例年より早くなります。タマネギ、ニンニク、ソラマメ、イチゴ、エンドウなど越冬作物の第一回目の追肥は2月末から3月上旬になります。2回目追肥は3月中旬を目途とします。それ以降は生育状況を見て判断します。追肥は速効性の「そさい3号」か「そさい5号」を使います。地温がまだまだ低い時期なので、これ以外の肥料では効きが遅くなったり悪くなったりします。また、ソラマメは倒伏防止として追肥と同時に土寄せと支柱立てを行います。また、タマネギの生育が進み過ぎてトウ立ちする恐れもありますが、これを止める手段はありません。

◎ジャガイモの植え付け

雪がないということでも植え付けも早まるかもしれませんが、遅霜に遭遇する危険性を考えると植え付けは例年通り3月下旬からとさせていただきます。それ以上早く植えたい方は小



自家種で芽の伸びてしまったイモ



徒長した芽は欠きとって植えます。

◎土性に応じた野菜の植え付けについて

野菜作りでは肥料を多くやれば大きく育つと考えて、肥料についていろいろ考える方が多くおられます。肥料のやり方によって野菜の生育は大きく影響を受けるので当然ですが、それと同じくらい重要なのが土壌の状態です。施肥は土壌の化学的な動きを規定しますが、土壌の評価には化学性のほかに排水性(透水性)、生物性(有用微生物)も考え合わせねばなりません。その上で、土壌に合った作物選定が重要です。

◎土性の特徴

土性は大括りで砂土、砂壤土、壤土、埴土、埴土に分けられ、丹南地域では壤土、埴土、埴土が殆どです。特に粘土の割合の高い圃場では、有機物の投入や客土で土壌改良を行うとともに、十分な畝上げを行わなければなりません。地力が高いのですから圃場作りをしつかりすればよいものとれます。

◎土性と野菜

野菜もそれぞれ好みの土壌があります。土壌に合った野菜を選ぶことが良いものを作る第一歩です。

◎野菜の好適土壌pH

土壌中の養分は土壌pHによって野菜の吸収量(利用率)が大きく違ってきます。我が国は年間降水量が多いため土壌は酸性になりがちなので、毎年石灰を撒いて好適pHを保たなければなりません。その土壌pHについても野菜によって好適な値は違つてきます。従つて作付前にはpHを測定して適正量の石灰散布を心がける必要があります。

◎野菜と連作障害

野菜によって連作すると生育不良となりやすいものがあります。障害の原因は病気や虫害、養分吸収障害など様々です。障害が出やすい野菜であっても接ぎ木してある苗は連作障害にも強くなつてきます。

分類	土壌構成	地力	排水	緩衝性	野菜に	管内の分布
砂土	殆ど砂	低い	良い	低い	良い	無し
砂壤土	砂が主体で粘土が少し混ざる	↓	↓	↓	良い	鞍谷川、日野川沿い
壤土	微砂と粘土が半々くらいに混ざった土	↓	↓	↓	良い	河和田、中河、片上、豊、新横江、今立地区の山沿い
埴土	粘土がかなり含まれる	↓	↓	↓	やや不向き	市内、今立の大部分の水田
埴土	殆ど粘土	高い	悪い	高い	不向き	片上、北中山、吉川

連作障害が出にくい	連作障害に注意	連作障害が出やすい
カボチャ、イチゴ、オクラ、スイートコーン、軟弱野菜類、キャベツ、ブロッコリー、タマネギ、ネギ、ニンニク、カブ、ニンジンなど	シロウリ、キュウリ、ダイコン、サツマイモなど	エンドウ、ナス、スイカ、トマト、ピーマン、サトイモ、ソラマメ、ジャガイモなど

◎ハウス管理

3月はハウス内と外気温の差が最も大きくなる時期です。晴天日、無風日には閉め切ったハウス内では50℃近くまで上昇し、軟弱野菜は急激に萎れ障害を残すこともあります。必ず最高最低温度計を毎日チェックし適切な温度管理を行つてください。また、トマトなど夏野菜の定植も3月下旬から始まりますので、計画的に植え付け段取りを行いましよう。なお、ハウス内の雑草類は病害虫の越冬場所となつてくるので、圃場準備とあわせてきれいに除去しておきましょう。

◎ホウレンソウのケナガコナダニ被害について

ケナガコナダニの被害が多くなる時期となつています。このダニは未熟有機物と乾燥した環境を好みます。体長は0.5mmと非常に小さく肉眼での確認は困難ですが、被害株は新葉が萎縮変形してきます。放っておくと全く商品価値のないものになつてしまいます。当初から発生が懸念される場合は播種前にネマモール粒を土壌処理しておきます。播種後の発生に対しては本葉2枚時と4枚時の2回、アファーム乳剤かカスケード乳剤を展着剤を加用して散布します。



被害株



ケナガコナダニ(目盛りは1mm)



ハウス内の最高気温は約50℃となっています。

◎春の育苗(管理の要点は前年度の用)

を参照してください。

春の育苗は温床設備がなければできません。育苗管理でも高湿度となりやすいので徒長した苗になる場合が多いので、温度管理、湿度管理には充分注意してください。



徒長したブロッコリー苗